

一般社団法人日本粘土学会 2021 年度第 2 回常務委員会議事録

日 時：令和 3 年 1 月 23 日（土）13:00～15:00

会 場：WEB 会議室

出席者：常務委員（15 名）：小暮敏博（WEB）、千野裕之（WEB）、中川昌治（WEB）、佐藤 努（WEB）、日比野俊行（WEB）、中戸晃之（WEB）、樽田誠一（WEB）、田村堅志（WEB）、森本和也（WEB）、佐久間博（WEB）、伊藤健一（WEB）、川俣 純（WEB）、小口千明（WEB）、手束聡子（WEB）、鈴木憲子（WEB）

監事（2 名）：月村勝宏（WEB）、志々目正高（WEB）

事務局：川島朝子（WEB）

成立確認：常務委員総数 15 名の過半数 8 名

出席常務委員 15 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2021 年度事業報告（資料 1）

（1）学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長（粘土科学）、中戸編集委員長（Clay Science）からそれぞれ資料をもとに報告があった。Clay Science Vol. 24 について No. 3-4 の発行は手持ちの論文数から現実的ではないので、NO. 2-4 合併号での発行を考えている。

（2）研究発表会・見学会等の開催

樽田実行委員長より、第 64 回粘土科学討論会（信州大学）は 2021 年度に延期となったので、引き続きその準備をすすめているとの報告があった。

（3）シンポジウム・セミナーの開催

田村企画委員長より、昨年企画をした通りに「粘土科学における SDGs」を実施する旨の報告があった。依頼している講師には、オンラインなら講演可能であるとの方もいるので、対面・オンラインハイブリッドでの開催ができるように、樽田実行委員長と相談の上準備をしているところである。

（4）参考粘土試料

森本参考粘土委員長より、資料をもとに報告があった。コロナ禍で研究活動が抑えられているためか、多少売り上げが少ないとの説明があった。

（5）広報

佐久間広報委員長より、資料をもとに報告があった。公式 Twitter を開設したので、是非活用して欲しい。

（6）渉外

川俣渉外委員より、今週に入って ICC に関して大きな動きがあり、今年度で開催が予定されていた 17th ICC が 2022 年に延期されることが正式にアナウンスされた。それに伴い AIPEA からは Bradley Award と Student Travel Found の募集延期が発表された。2024 年開催予定の米国粘土学会とのジョイント開催については、前回から進展はしていないとの報告があった。

（7）表彰

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

(9) 庶務

手束庶務委員より、資料をもとに報告があった。また、JpGUに関連した報告が小口庶務委員よりあった。年会費を値上げした分参加登録費を値下げし、参加し易いようにすることがJpGU内で検討されているとのことであった。

(10) 常務委員会及び理事会

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

2. 2021年度会計中間報告（資料2）

伊藤会計委員から、資料をもとに報告があった。コロナ禍のため雑誌の販売などによる収入は減っているが、持続化給付金が満額の200万円給付されたため、全体では黒字になっている。また欠号している粘土科学討論会要旨集について、坂本先生からの学会誌の寄附の中にあるかもしれないが、まだ整理ができていないとの報告が事務局よりなされた。

学術振興基金があと2から3年で無くなってしまうので、今後の方策を理事会で検討する。昨年度授与した学術振興賞に関して、予定していた国際会議開催の有無、Clay Scienceへの投稿について受賞者の指導教員である高木理事に確認をすることとした。

3. EBSCOデータベースへの登録について（資料3）

日比野粘土科学編集委員長より、資料をもとに説明があった。また、中戸Clay Science編集委員長からも発言があり、佐藤常務委員長を加えた三役では提携をしても良いのではないかという意見であることが報告された。特段の反対意見がないので、理事会に諮ることとした。

4. 受理論文の早期掲載（いわゆるASAP）について（資料4）

中戸Clay Science編集委員長より、資料をもとに説明があった。早期掲載行なうことに反対の意見は無かったが、追加経費の負担に関しては、会員サービスの向上やより多くの投稿を促すための投稿料に上乗せしないという意見と、学会の財政が厳しいため投稿時のオプションとして著者に負担してもらうべきという意見に別れ、これらの議論を紹介して理事会に諮ることとした。

5. 粘土科学討論会（資料5）

樽田実行委員長より資料をもとに説明があった。日程以外は大きな変更はなく、対面での開催を視野に準備をしている。山崎前会長の講演をどのように呼ぶかについて、理事会で諮ることとした。また、懇親会は感染対策として着席による開催も検討してもらうこととした。また、講演申し込みの前の5月中旬ごろに臨時理事会を開催し、その時期での感染状況やそ

れ以降の予測をもとに、対面かオンラインかを判断することが提案された。

6. 著作権ポリシーについて（資料6）

日比野粘土科学編集委員長より、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)から当学会の学会誌における著作権ポリシーに関する問い合わせがあり、学会誌の論文の著作権は学会に帰属し、著作者による論文のインターネット上の公開については査読後論文のみ認めると回答することにした。

7. その他

小暮会長より AIPEA Nomenclature Committee のメンバーを長年勤めているが、委員会の再編を機に新しい人を推薦したい。誰もいなかったら自分が続けるが、自薦他薦で手を挙げて欲しいとの発言があった。

以上、審議の上承認された。

報告事項

時間の関係で、理事会で行うこととした。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和3年2月3日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 佐藤 努 ⑩

監 事 月村 勝宏 ⑩

監 事 志々目 正高 ⑩